

「『さくら さくら』の音階でせんりつづくり」(2時間扱い)

～題材8『日本の音楽でつながろう』における(イ)^{*}の指導事項を中心とした音楽づくり

* 音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

学習のねらい

- (1) 日本の音階や旋律のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) 旋律、音階、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 日本の音階に興味をもち、音の動きを考えて旋律をつくる活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、日本の音階に親しむ。

教材や教具

●「『さくら さくら』の音階でせんりつづくり」二次元コード

「ミファラシドミ」の中から音を選んで、のリズムで旋律をつくる。三人の組になり、それぞれがつくった旋律を四つつなげて、8小節の旋律をつくり、発表し合う。

主に扱う音楽を形づくっている要素

ア 旋律、音階

イ 反復

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<p>①知▶日本の音階や旋律のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。</p> <p>②技▶思いや意図に合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、旋律をつくる技能を身に付けて旋律をつくっている。</p>	<p>思①▶旋律、音階、反復を聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態①▶日本の音階に興味をもち、音の動きを考えて旋律をつくる活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

学習の流れ

ステップ1 「さくら さくら」の音階  に慣れる。

① 音階に慣れ親しむために、音階の上下の動きを繰り返し演奏する。



「さくら さくら」の音階を使って演奏するので、先生のまねをしましょう。
使う音は「ミファラシドミ」ですよ。



3年次の学習で使用した「ドレミの風船」を提示して、音の上がり下がりを確かめる。慣れてきたら自分で即興的に自由に旋律をつくる。

② 教科書P.62「音の上がり下がり」を確認しながら「ミファラシドミ」を使った旋律の模倣をする。



リズムを手拍子で打ったりリズム唱をしたりして確認し、このリズムに合わせて、「ミファラシドミ」から音を選んで旋律をつくる。

ポイント

- ・日本の音階を使った旋律づくりでは、適当に音を選ぶだけでは「日本の音楽らしさ」を感じられる旋律にはなりません。ここでは旋律の音の

動きを意識してつくることで「日本の音楽らしさ」を感じられる旋律になるので、「音がつながっているね」「いったりきたりしているね」など、旋律がどのような音の動きをしているのかを確認しながら進めるようにします。

- 一人で旋律をつくる前に、学級全体で旋律の音の動きについて確認したり慣れたりする時間を設定するようにします。
- 教科書では楽器の例としてリコーダー、キーボード、箏が挙げられていますが、木琴や鉄琴なども考えられます。演奏が難しかったり、音の上がり下がりを理解することが難しかったりする場合は、視覚的に確認できる楽器を使用すると分かりやすいでしょう。音板を外すことができる木琴などの使用も考えられますが、使用する音板のみに付箋などで目印を付ければ演奏はしやすくなります。



次は、このリズムに合わせて旋律をつくりましょう。まずは、先生のまねをしてください。

ポイント

- 例えば、鉄琴で階名唱しながら演奏できるとよいが、リコーダーや鍵盤ハーモニカの場合は演奏しないで階名唱しながら運指を示すなど工夫するようにします。

<例1>



(階名唱しながら演奏する。)



(それぞれが選んだ楽器で模倣する。)



教科書P.62の「音の上がり下がり」のうち、どの動きをしていますか。



「上がっていく」です。

<例2>



(階名唱しながら演奏する。)



(それぞれが選んだ楽器で模倣する。)



教科書P.62の「音の上がり下がり」のうち、どの動きをしていますか。



「音の高さがあまり変わらない」です。

<例3>



(階名唱しながら演奏する。)



(それぞれが選んだ楽器で模倣する。)



教科書P.62の「音の上がり下がり」のうち、どの動きをしていますか。



「下がってから上がる」です。

このように、ほかの「音の上がり下がり」も演奏して確認する。

ステップ2 二次元コードのコンテンツを活用し、音の上がり下がりに気を付けて「ミ ファラシドミ」から音を選んで自分の旋律をつくる。

① 音の上がり下がりを考えながら旋律をつくる。



教科書P.63の二次元コードから「『さくら さくら』の音階でせんりつづくり」のコンテンツを開いて、音の上がり下がりに気を付けて旋律をつくってみましょう。つくったら、再生して音を確かめて、選択した楽器で必ず演奏してみましょう。

<例>



私は、「下がっていく」形でつくりました。音が下がっていくと、なんだか落ち着きます。あと、この旋律は音楽が終わる感じがします。

ポイント

- ・二次元コードのコンテンツでは、音を選択するだけで聴きながら旋律をつくることができるので、ほとんどの子供が迷わず活動できます。ここで大事なのは、つくった旋律を必ず自分で演奏してみるとことです。また、選択した「音の上がり下がり」と、実際に子供が演奏している旋律とが合っているかどうかを確認することも必要です。

② 三人で集まり、互いのつくった旋律を確かめ、自分の旋律を完成させる。

選んだ「音の上がり下がり」と違う旋律の音の動きになっているよ。



音の動きが大きく変わると、日本の音楽らしさが感じられないかもしれないね。



私は旋律がまだ上手に弾けないから、演奏しやすい音の動きに変えることにするよ。



互いの旋律を聴き合ってアドバイスすることによって、気付いたことがありますね。友達の意見を参考にして旋律をつくり直したり、さらに気に入った旋律になるように調整したりしましょう。

評価

- ①知 ①では、日本の音階から音を選んで旋律をつくる際に、ステップ1での体験を生かしながら、音の上がり下がりを意識して音をつなげ、それを演奏しているかどうかを、子供の状況やワークシート、表現内容から見取ります。また、三人で旋律を聴き合う場面では、各自の旋律について音のつなげ方の特徴に気付いているかどうかを、子供どうしの話し合いや発言などから見取るようにします。

ステップ3 三人の組になり、それぞれがつくった旋律を四つつなげて、8小節の旋律をつくる。

① それぞれがつくった旋律を確かめ、つなげる順番を決める。



それぞれの旋律の音の上がり下がりを確認しましょう。
どの旋律を2回使ったらいいか、どの旋律を最後にしたらいいか考えましょう。
つなげ方を決めたら、実際に音を出して確かめてみましょう。

私の旋律は「上がっていく」形だから、そのあとに「下がっていく」形を続けると自然な感じだね。



Aさん

私の旋律は「下がっていく」形だから、いちばん最後がいいな。



Cさん

じゃあ、Aさんの旋律を2回使おう。A→B→A→Cの順につなげて一度演奏してみようよ。



Bさん

評価

①知 ここでは、各自の旋律の音のつなげ方をもとに、どの旋律をどのように反復させるかについて試しているなかで、旋律のつなげ方の特徴をつかんでいる状況を観察したり、子供の発言に着目したりして、ステップ2での①知の評価に加えて評価していきます。

② 何種類かのつなげ方を考え、その中でいちばん気に入った旋律の順番を決定したり、音を変えたりする。

<例>

Aさん Bさん

Aさん Cさん



Bさん

私の旋律も「下がっていく」形だから、終わる感じがするね。
でも、次のAさんの旋律に受け渡す感じにしたいから、最後の部分を変えたいな。どうしたらいいかな。



Cさん

最後の音を「ミ」じゃなくて「シ」にしたらどうなるかな。



Bさん

【楽譜】につくり直してみたよ。
つなげて演奏して、確かめてみよう。

<作品例>



(タップまたは読み取り)

ポイント

- ・旋律の並び替えだけで終わらせず、どうしてそのつなげ方にしたのか理由を言えるようにします。そして、順番を決めたら必ず演奏して、思ったとおりの演奏に聴こえるのか確かめます。

評価

思① グループ内の発言内容、試し方、表現内容から見取ります。また、最終的にどうしてその順番に決めたのかを記入したワークシートも参考にします。

③三人でつなげた旋律を演奏し、工夫したところを発表したり、それぞれの組のよいところを見付けたりする。



A・B・Cさん

私たちのグループは、BさんとCさんの音の上がり下がりが「下がっていく」形で似ていたので、Bさんの旋律の終わりの音を変えて続く感じになるようにしました。



このグループは、AさんとCさんの旋律をつなげると「上がってから下がる」形になっていて、大きなまとまりが感じられました。また、Bさんの旋律は、まだ音楽が続くように聴こえてきて、Cさんの旋律は、落ち着いて終わる感じに聴こえてきました。



Dさん

Dさんは、旋律のつなげ方の工夫によって、大きなまとまりになつたと感じたんですね。
またこの班では、Bさんが旋律の工夫の仕方で悩んでいたときに、AさんとCさんもいっしょに吹いて試したり、どうしたらよいかを相談したりしていたところが素敵でしたね。

ポイント

- ・聴き合うポイントとして「音の上がり下がり」が挙げられます。子供たちは聴いているだけでは音の上がり下がりを聴き取れないことが多いので、ICT機器を活用して、出来上がった楽譜を共有したり、画面に拡大表示したりして可視化するとよいでしょう。
- ・発表時に欠席してしまった子供の分は、同じグループの子供が代わりに演奏したり、指導者が演奏したりすることが考えられます。また、ペアの場合は2回使う旋律を協働してつくっても楽しく活動できます。

評価

②技 発表内容やワークシートの記述内容から読み取ります。日本の音楽らしく聴こえる旋律になっているか、また、選択した「音の上がり下がり」に合った旋律ができているかどうかは、指導者が前もって確認しておく必要があります。ここでは、反復する旋律のつなげ方をどのように考え

ているか、また、前後の旋律について理解したうえで旋律をつなげることができるかを、表現内容や子供の発言などから見取ることが大切です。

態① 主体的に取り組む態度については、ステップ1で指導者とともに模倣しながら即興的に旋律をつくる様子から、興味をもって活動しているかを評価します。ステップ2で、一人で旋律をつくったり、三人で協働して互いの旋律を聴き合ったり、ステップ3で、旋律をつなげて一つの旋律をつくり上げたりする際に、期待感をもって活動しているか、また、互いの旋律のよいところを認め合いながら、より気に入った旋律になるように音楽をつくり上げていく姿を、継続的に評価していきます。

評価ガイド

本学習は、学習指導要領のA表現(3)音楽づくりの(イ)^{*}の指導事項に当たる内容です。この学習を無理なく展開するには、ステップ1で「さくら さくら」の音階が醸し出す「日本の音楽らしさ」を感じ取っておくことが重要です。指導者とともに、旋律を模倣したり自由に旋律をつくりたりすることで、音の動きが「日本の音楽らしさ」に関わっていることを実感します。それが礎となって、ステップ2では、日本の音階や、音の上がり下がりの特徴について、そのよさや面白さと関わらせながら気付いていきます。そしてステップ3ではグループで協働的に音楽をつくりていきます。

Aと評価される子供は、例えば、音の上がり下がりによって旋律がどのような感じがするのかといった音の動きがもたらす効果について考え、そこから旋律の反復やつなげ方を工夫し、どこで旋律を繰り返すことによってまとまりを感じられる旋律になるのかを的確につかんでいる状況だといえます。

* 音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

他題材や他学年との関連

音の上がり下がりについては、3年生『2. 歌って音の高さをかんじとろう』で「ドレミの風船」を使った学習を、『5. せんりつのとくちょうをかんじとろう』では隣の音へ動くと滑らかな感じがするといった旋律の特徴を感じ取る学習を、また『8. ちいきにつたわる音楽でつながろう』では、ラドレの3音を使った旋律づくりを通して思いや意図をもって旋律をつなげたり、音楽のまとまりについて考えたりする学習を行ってきました。そこでは、旋律が終わる感じや続く感じも学習しました。これまでの経験を思い出しながら音楽づくりに臨むことで、活動がさらにスムーズに進むことでしょう。

「旋律が上がっていくからだんだん強くしよう」「どの旋律をどこで2回使おうか」などと考える活動は、ほかの領域や分野の学習においても、音楽的な見方・考え方を働かせることにつながっていくと考えています。

ワークシート記入例

「さくら さくら」の音階でせんりつづくり

組名前

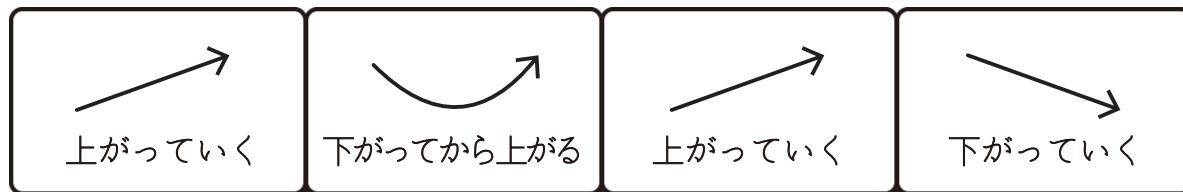
*自分がつくったせんりつを書きましょう。

The diagram shows a musical staff with a 4/4 time signature. Notes are placed on the staff, corresponding to the lyrics 'さくら さくら さくら さくら' (Sakura). Below the staff, a grid of boxes contains the lyrics and their corresponding pitch levels (M, D, Sh, R, Fa). A legend on the left indicates: '音の上がり下がり' (Upward/downward movement) with an arrow pointing up; '始めの音' (Starting note) with a circle containing 'ミ'; and '終わりの音' (Ending note) with a circle containing 'ミ'. A button with arrows for '▲' and '▼' is also present. At the bottom, a row of boxes shows the sequence of notes: ミ ファ ラ シ ド シ ド ミ ム.

*せんりつをつくるときに考えたこと、えんそうして気づいたことを書きましょう。

タブレットでききながら、低い音からはじめて一気に上がったり、ミとファだけでつくれてみたりして、試しました。その中で、一回下がってから上ると、よびかけるような感じのせんりつになりました。これをけんばんハーモニカでふいてみたら、友達とつなげてみたくなつたので、このせんりつに決めました。

*つなげるときに考えたこと、えんそうして気づいたことを書きましょう。



*つなげるときに考えたこと、えんそうして気づいたことを書きましょう。

自分のせんりつは、呼びかける感じのせんりつだと伝えてふいたら、友達がいいね!と言ってくれました。

Bさんがその続きをふいてくれて、やっぱりつながった!と思いました。

また、Cさんのせんりつは下がっていくので、落ち着いて終わる感じがしました。自分のせんりつをくり返して、Cさんとつなげると、落ち着いて日本の音楽らしくなりました。

ワークシート

「さくら さくら」の音階でせんりつづくり

組 名前 _____

*自分がつくったせんりつを書きましょう。

音の上がり下がり

始める音 終わりの音

えらんだ音

*せんりつをつくるときに考えたこと、えんそして気づいたことを書きましょう。

(A large dashed rectangular box for writing)

*つなげるときに考えたこと、えんそして気づいたことを書きましょう。

(A large dashed rectangular box for writing)

*グループで決めた音の上がり下がりを書きましょう。

(Four large empty boxes for writing)